

北陸地方整備局の事業進捗等について

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等 上段:前回評価時 下段:現時点	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト削減や代替案等の可能性
神通川直轄河川改修事業	富山県富山市	平成30年度 ～令和29年度 平成30年度 ～令和29年度	約390 約390	<ul style="list-style-type: none"> ・富山市の人口は横ばい、世帯数は増加傾向にある。 ・富山市では、平成27年3月北陸新幹線の開通に合わせて新幹線高架下への市内電車の乗入れを開始したほか、コンパクトなまちづくりとして、公共交通の活性化や公共交通沿線への居住推進等を進めており、地域のさらなる発展が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和44年に一級河川に指定され、直轄事業として河川改修に着手。 ・直轄化以降、三大水衝部をはじめとした急流河川対策、支川の弱小堤対策等を実施。 ・平成29年度末時点の大臣管理区間において堤防が必要な延長に対する計画断面堤防の整備状況は64.1%。 ・令和元年度に安野屋地区の堤防整備に着手した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、危険な箇所から順次事業の進捗を図ってきている。現在は、流下能力の向上と急流河川特有の洪水流の強大なエネルギーに対する堤防の安全確保のため、河道掘削、急流河川対策等を重点的に実施しているが、未だ治水上対応しなければならない箇所がある。 ・治水事業の進捗に対する地元からの強い要望もあり、今後も引き続き計画的に事業の進捗を図ることとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河道掘削の発生土を築堤等の材料として利用することにより、コスト削減を図っている。 ・河川内樹木の伐採後に伐木を無償配布することにより、コスト削減を図っている。 ・新技術、施工計画の見直し等代替案の検討により、一層のコスト削減や環境負荷低減を図っていく。
飯豊山系直轄砂防事業	山形県西置賜郡小国町、新潟県新発田市・胎内市・東蒲原郡阿賀町・岩船郡関川村	平成24年度 ～令和22年度 平成24年度 ～令和22年度	約523 約523	<ul style="list-style-type: none"> ・飯豊山系の各流域は、急峻な地形、脆弱な地質、多雨・多雪の影響により、土砂生産・流出の可能性が高い。さらに、昭和42年8月に発生した羽越災害によって、流域内が著しく荒廃し、今なお多量の不安定土砂が堆積している。 ・土砂・洪水氾濫が想定される範囲には、新潟市のベッドタウンとして発展している新発田市、胎内市等の市街地の他、重要交通網(国道7号、49号、113号、290号、JR羽越本線、JR磐越西線、JR米坂線、日本海東北自動車道、磐越自動車道)、農耕地、観光施設が分布しており、豪雨時には土石流や土砂流出による土砂・洪水氾濫で広域的な被害とそれに伴う地域経済への被害が想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度末の中期的な目標における整備状況は、整備対象土砂量において63.1%。 ・平成29年度末の中期的な目標における整備状況は、土石流危険渓流58渓流に対し、整備済渓流数は20渓流。 ・令和元年度に胎内川流域の直轄砂防事業が終了する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで実施してきた砂防事業により流域の安全性は確実に向上している。 ・飯豊山系の各流域における砂防事業に対する地域の期待も高く、土砂災害防止に対する整備促進が要望されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設残土の有効活用や新工法の活用により、工事におけるコスト削減を図っている。 ・設計から工事に係る各段階において、コスト削減につながる代替案の可能性の視点にたつて事業を進めている。